

自主防災総合訓練を実施

参加者の共助に対する意識の差が課題

議員 平塚市自主防災総合訓練は、平成十七年度から地域における自主防災能力の向上を目的に地域分散型の訓練を実施しているが、訓練参加者の防災に対する意識をどのようにとらえているか。

防災安全部長 地域分散型訓練は自宅や自らの身を守る自助訓練から開始しているが、会場に移動して行う集団による訓練では、リーダー任せの状況も見受けられ、自主防災組織の役員と参加した一般住民との間には、共助に対する意識に差がある。



地域防災活動者育成研修会

と認識している。

議員 今回の訓練での問題点を聞きたい。

防災安全部長 訓練内容の説明が遅れたため、参加者数が少なかったことが問題点と考えている。

議員 訓練に対する今後の取り組みを伺いたい。

防災安全部長 訓練内容の充実を図るため、訓練後に実施しているアンケート結果などをもとに内容の見直しを行っていく。

議員 自主防災総合訓練以外に防災意識の向上を図る取り組みは実施しているのか聞きたい。

防災安全部長 地域での積極的な活動を推進するため、「地域防災活動者育成研修会」を実施し、また、家庭の主婦を対象とした「女性防災コミュニケーション講座」も開催している。これらの取り組みを通じて家庭や地域での

防災意識の向上を図っていく。

要援護者の避難対応 庁内に検討会設置

議員 災害時の一連の避難行動に支援を必要とする「災害時要援護者」に対する今後の本市の支援策を聞きたい。

健康福祉部長 国は平成十七年三月に「災害時要援護者の避難支援ガイドライン」を策定し、平成十八年三月には改訂版を示した。このガイドライ

ンでは、災害時における情報伝達体制の整備等五つの課題が挙げられた。本市も、このガイドラインを参考に要援護者への支援策を積極的に講じるための検討を行っている。

議員 避難勧告等を迅速・確実に要援護者へ伝達するために庁内ではどのような連携体制を整えているのか。

健康福祉部長 平成十八年七月に防災安全部と健康福祉部の関係各課で「災害時要援護者の避難支援検討会」を設置した。この検討会で国から示されたガイドラインなどを参考にしながら支援に当たっての課題等を整理していく考えである。

県が対象地震変更し 津波浸水予測図公表

相模川等での遡上を表示

議員 平成十八年八月三十日に神奈川県から「津波浸水予測図」が公表されたが、対象となる地震が変更された理由を聞きたい。

防災安全部長 今回の公

表で対象とされた地震は、南関東地震、神奈川県西部地震、神奈川東部地震、国府津・松田断層帯地震、元禄型関東地震である。今回、東海地震が対象から外された理由は、地震による津波の被害が想定されないことによる。一方、対象となった神奈川・国府津・松田断層帯地震は、断層帯が相模湾に達しており、内陸部の断層地震ではあるが津波が想定されるためである。

議員 従来の津波浸水予測との相違点を聞きたい。

防災安全部長 最大の相違は、本市の東西を流れる相模川と金目川における津波の遡上が表示された点である。なお、浸水

エリアについては従来の予測と大差はない。

津波への対策 図上訓練導入

議員 今回の浸水予測図の公表を受けて、津波対策の強化をどのように図る考えなのか。

防災安全部長 海岸地域の港、なでしこ、花水地区を対象に津波対策訓練を実施しているが、本年度から、避難時の行動を参加者自身が考えることで迅速な避難を可能とする図上訓練を取り入れた。今回の浸水予測図には津波の到達時間が明示されており、これを基に避難ルートの確認など、より現実的な避難対応訓練を

求められる火災現場での迅速な行動

消火体制の強化に努力

議員 住宅密集地や狭い道路での消火活動には困難を伴うが、消火作業の実態を聞きたい。

消防長 住宅密集地等

の火災発生時には、消防車両は部隊指揮者の指示のもと、出火建物を四方から包囲し、延焼阻止を

主体とした消火作業を行っている。しかし、火災発生時は時間的余裕がないため、火災現場での原

則的な戦術などをあらかじめ決めておき、現場で部隊指揮者からの命令がない場合でも迅速な行動が取れるよう日々ごろから協議を重ねている。

議員 今後、どのように消火体制の強化を図っていくのか。

消防長 火災事例を研究して消火作業に生かすとともに、戦術を高めるためのさまざまな訓練を実施するなど、あらゆる種類の火災等への備えを万全にし、消火体制の充実強化に努めていきたい。

議員 消火活動における消防指揮車両の役割を聞きたい。

消防長 「消防指揮車両」すなわち「指揮隊」は災害現場の最前線で、刻々と変化する現場の情報を収集・分析したうえで各

隊へ消火活動を命令し、災害による被害の軽減を図る重要な役割と、消防の任務が効率的かつ効果的に遂行されるよう消防力を総合的に発揮させる役割を担っている。

防火水槽・消火栓 月1回の調査点検

議員 防火水槽および消火栓の位置の把握と点検はどのように行っているのか聞きたい。

消防長 消防署では、毎月一回、各消防隊が市内すべての消火栓と防火水槽の位置を確認する地理調査および施設・設備の外観機能を点検する水利調査を実施している。なお、年一回、この地理調査および水利調査時に消火栓を開栓し、出水する点検も実施している。

ストップ 駅周辺の放置自転車

新たな駐輪場の早期整備を

議員 平塚駅周辺の自転車駐輪場は月極が多く、一時的に預けられる場所が少ないために自転車が放置されていると考えるが、現状を聞きたい。

防災安全部長 現在、駅周辺には自転車駐輪場整備センターおよび平塚市開発公社が管理運営する有料駐輪場が一〇か所あり、約三六〇〇台の収容が可能である。そのうち、約六五〇台は一

時預かりとなっているが長時間の利用が多く、短時間利用の駐輪台数は限られている。この短時間利用のため、駐輪禁止場所と認識していても放置している状況にある。

議員 早期に新たな自転車駐輪場を整備する必要があるのではないか。

防災安全部長 用地の確保等が困難であることから整備が遅れている。現

在、駅周辺の未利用地の有効活用を図るため、平成十八年七月に庁内関係各課で自転車駐輪場整備検討会を設置し、駐輪場の規模、建設場所や整備手法などの課題について検討を行っている。

議員 放置自転車の対策について聞きたい。

防災安全部長 普段から警告チラシによる啓発、整理および撤去活動を実施している。



はしご車による消火訓練

脳脊髄液減少症の 治療推進を求める意見書

実施していきたい。

議員 今回の津波浸水予測図の市民への周知方法を市に別途送付される。その時点で広報紙等により周知していきたい。

防災安全部長 現在の津波浸水予測図は、閲覧用

として県から提供を受けたものだが、本年度中に市民への配布用の予測図が市に別途送付される。その時点で広報紙等により周知していきたい。

脳脊髄液減少症は、交感神経系、スポーツ障害、落下事故、暴力などによる頭部や全身への強い衝撃によって脳脊髄液が慢性的に漏れ続け、頭痛、首や背中の痛み、腰痛、目まい、吐き気、視力低下、耳鳴り、思考力低下、うつ症状、睡眠障害、極端な全身倦怠感・疲労感等のさまざまな症状が複合的に発現する病気であり、難治性のいわゆる「むち打ち症」の原因として注目されている。

しかし、この病気は、これまで原因が特定されない場合が多く、「怠け病」と判断されたため、患者の肉体的・精神的苦痛はもとより、患者の家族等の苦勞もはかり知れなかつた。

近年、この病気に対する認識が徐々に広がり、本症の研究に取り組んでいる医師らより、新しい診断法・治療法(ブラッドパッチ療法など)の有効性が報告されている。そのような中、医学界においても脳脊髄液減少症に関して本格的な検討を行う機運が生まれつつあり、長年苦しんできた患

一 交通事故後の後遺症に苦しむ患者、外傷による髄液漏れの患者の実態調査を実施すること。

二 脳脊髄液減少症についての更なる研究の推進と、ブラッドパッチ療法を含めたいわゆる「むち打ち症」の治療法を早期に確立すること。

三 脳脊髄液減少症の治療法の確立後、速やかにブラッドパッチ療法等に対し医療保険を適応すること。

以上、地方自治法第九九条の規定により意見書を提出する。

平成十八年九月二十七日

平塚市 議会